

高濃度ビタミン C 点滴による抗がん作用説明・同意書

高濃度ビタミン C 点滴療法は、ノーベル賞を 2 回受賞したライナス・ポーリング博士によって発見された、がんの補完療法です。

抗がん作用のメカニズム

■ ビタミン C の酸化と過酸化水素の生成:

高濃度のビタミン C が血液中に点滴されると、酸化されて過酸化水素という物質を生成します。

■ がん細胞による取り込み:

がん細胞は栄養となる糖を積極的に取り込もうとしますが、ビタミン C は糖と構造が似ているため、がん細胞はビタミン C を糖と勘違いして取り込んでしまいます。

■ がん細胞内での過酸化水素の蓄積:

がん細胞の多くは、過酸化水素を分解する酵素であるカタラーゼを持っていないか、その量が少ないため、細胞内に過酸化水素が蓄積します。

■ がん細胞の破壊:

蓄積した過酸化水素は強力な酸化作用を持ち、この過酸化酸素が細胞の機能を大幅に抑え込み、がん細胞死に向かいます。

■ 正常細胞の保護: 一方、正常細胞はカタラーゼを十分に持っているため、過酸化水素を速やかに分解し、細胞へのダメージを防ぐことができます。

このメカニズムにより、高濃度ビタミン C 点滴療法は正常細胞に害を与えることなく、がん細胞だけを選択的に攻撃することができます。さらに、ビタミン C には抗酸化作用や免疫機能の強化など、がん予防や治療に有益な効果もあります。

この治療に使用するビタミン C の量は、1 回あたり 50~100g という超大量投与です。口からではなく、直接点滴で静脈に投与することで血中の濃度を大幅に高めることができます。個人差はありますが、がん治療と QOL の改善を目的とする場合、高濃度ビタミン C 点滴を週に 2~3 回、まずは 3 ヶ月ほど続けるのが一般的です。

高濃度ビタミン C 点滴の特徴

- がん細胞への選択的攻撃
- 副作用が少ない

- 免疫機能の強化
- 他の治療法との併用可能
- がん治療のストレス緩和
- 倦怠感・食欲低下・不眠などの症状改善効果
- がん予防効果

高濃度ビタミンC点滴療法の注意点・副作用

- 糖尿病の方は、点滴後に簡易自己糖測定器で測定すると見かけ上高血糖になるため、血糖値によりインスリンの投与を調節している方は注意してください。
- G6PD 欠損症の方は、溶血による貧血を起こす可能性があります。そのため、事前に G6PD の欠損がないかどうかの採血検査を受けていただく必要があります。
- 腎不全、心不全のある方はこの点滴は受けられません。
- ごくまれに腎結石ができる可能性があります。
- ごくまれに腫瘍からの出血を起こす可能性があります。
- 点滴当日は血液中のビタミン C 濃度がかなり高くなるため、喉の渇くことがあります。普段より 550cc 程度（ミニペットボトル1本分）多めに水分をお摂りください。

☆気になることがございましたら、当院までお問い合わせください。

私（及び保護者）は、貴院より十分に説明を受け、理解・納得の上で、施術を受けることに同意します。

年月日：令和 年 月 日

氏名： _____ （保護者氏名： _____）